

**朱記問題は、補修講習で重要といわれた問題**

**問1 . 市町村長等から製造所等の許可の取消または、使用停止を命じられる場合は次のうちどれか**

- 製造所等を譲り受けてその届出を怠ったとき
- 製造所等の位置、構造または設備を無許可で変更したとき
- 危険物施設保安員を定めなければならない製造所等において、それを定めていないとき
- 製造所等において危険物の取扱作業に従事している危険物取扱者が指名を変更したにもかかわらず、免状の書き換えをしていないとき
- 製造所等において危険物の取扱作業に従事している危険物取扱者が危険物の取扱作業の保安に関する講習を受けていないとき

**問2 . 貯蔵し、取扱う危険物の品名や数量にかかわらず危険物保安監督社を選任しなければならない製造所等はどれか**

- 屋内貯蔵所
- 屋外貯蔵所
- 給油取扱所
- 販売取扱所
- 屋内タンク貯蔵所

**問3 . 第4類の危険物であるエチルアルコールを200リットル貯蔵した同一の場所に次の危険物を貯蔵する場合、法令上指定数量以上となる組合せは次のうちどれか**

二硫化炭素	20リットル
エチルアルコール	100リットル
アセトン	150リットル
軽油	900リットル
軽油	1000リットル

**問4 . 次のうち周囲に一定の幅の空地（保有空地）を設けなければならないものはいくつあるか**

- 屋内タンク貯蔵所
- 簡易タンク貯蔵所（屋外に設置）
- 屋内貯蔵所
- 給油取扱所
- 一般取扱所

**問5 . 法令上製造所等に設置する消火設備の区分で誤っているものはどれか**

- 乾燥砂は第5種の消火設備である
- 泡を放射する消火器で大型のものは第4種消火設備である
- 粉末消火設備は第3種の消火設備である
- 二硫化炭素消火器は第2種の消火設備である
- 屋外消火栓設備は第一種の消火設備である

**問 6 . 法令上、第 4 類の危険物と他の危険物を車両に混載する場合、次のうち誤っているものはどれか**

- 第 1 種の危険物との混載は認められていない
- 第 2 種の危険物との混載は認められている
- 第 3 種の危険物との混載は認められていない
- 第 4 種の危険物との混載は認められている
- 第 5 種の危険物との混載は認められていない

**問 7 . 法令上、製造所の区分及び貯蔵、又は取扱う危険物の品名や数量等に関係なくすべての製造所等の所有者に共通して義務づけられているものは次のうちどれか**

- 製造所等に危険物保安監督者を定めること
- 製造所等に自衛消防組織を置くこと
- 製造所等の位置、構造及び設備を技術上の基準に適合するよう維持すること
- 製造所等の火災を予防するために防火規格を定めること
- 製造所等に危険物保安員を定めること

**問 8 . 軽油 5 0 0 0 リットルを製造所等以外の場所で 1 0 日間だけ貯蔵しようとする場合、必要な手続きで正しいのうちどれか**

- 当該施設を管轄する都道府県知事の認可を受ける
- 所轄消防長または消防署長の承認を受ける
- 当該区域を管轄する市町村長等に届け出る
- 安全な場所であれば手続きは必要ない
- 所轄消防長または消防署長に届け出る

**問 9 . 次の ( A ) ~ ( C ) に当てはまる語句の組合せで正しいものはどれか**

「免状の再交付は当該免状の ( A ) をした都道府県知事に申請することができる。免状を亡失しその再交付を受けた者は亡失した免状を発見した免状を発見した場合はこれを ( B ) 以内に免状の ( C ) を受けた都道府県知事に提出しなければならない」

- |           |       |     |
|-----------|-------|-----|
| 交付        | 2 0 日 | 再交付 |
| 交付または書き換え | 7 日   | 交付  |
| 交付        | 1 4 日 | 再交付 |
| 交付または書き換え | 1 0 日 | 再交付 |
| 交付または書き換え | 1 0 日 | 交付  |

**問 1 0 . 危険物を収納した容器を車両で運搬する場合の積載方法と運搬方法の基準で誤りはどれか**

- 指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合は当該危険物に適應する消火設備を備えること
- 指定数量以上の危険物を運搬する場合は当該車両に標識を掲げること
- 運搬容器の外部に品名、数量などを表示して積載しなければならない
- 類を異にする危険物の混載はすべて禁止されている
- 指定数量以上の危険物を運搬する場合において休憩のために車両を一時停止させるときは安全な場所を選び運搬する危険物の保安に注意する

**問 1 1 . 次の文の ( A ) ( B ) に該当する組合せで正しいものはどれか**

「製造所等の譲渡があったとき譲受人は ( A ) の許可を受けた者の地位を承継する。この場合において許可を受けた者の地位を承継した者は ( B ) その旨を ( A ) に届け出なければならない」

市町村長等	7 日以内
消防長または消防署長	延滞なく
市町村長等	延滞なく
消防長または消防署長	1 0 日以内
市町村長等	1 0 日以内

**問 1 2 . 定期点検について次のうち誤っているものはどれか**

定期点検は製造所の位置、構造及び設備が技術上の基準に適合しているかどうかについて行う

地下タンク貯蔵所及び地下タンクを有する給油取扱所は指定数量の倍数にかかわらず定期点検を受けなければならない

一定規模以上の引火性液体を貯蔵する屋外タンク貯蔵所については、一定期間ごとにタンクを空にしてタンク内部についても点検することが義務づけられている

点検の記録は一定期間保存しなければならない

点検は原則として 1 年に 1 回以上実施しなければならない

**問 1 3 . 次の文の ( ) に当てはまる法令で定められている温度はどれか**

「移動貯蔵タンクから危険物を貯蔵し、または取扱うタンクに引火点が ( ) の危険物を注入するときは、移動タンク貯蔵所の原動機を停止すること」

- 3 0 未満
- 3 5 未満
- 4 0 未満
- 4 5 未満
- 5 0 未満

**問 1 4 . 法令上、危険物の取扱作業の保安に関する講習で次のうち正しいのはどれか**

受講義務のある危険物取扱者は原則として 5 年に 1 回受講しなければならない

法令の規定に違反して罰金以上の刑に処された者に受講の義務がある

免状の交付を受けている者のうち製造所等において現に危険物の取扱作業に従事しているものに受講が義務づけられている

危険物保安監督者のみに受講が義務づけられている

甲種危険物取扱者および乙種危険物取扱者に受講が義務づけられているが、丙種危険物取扱者に受講の義務はない

**問 1 5 . 市町村長等が製造所等の所有者に対して使用の停止を命ずることができないものはどれか**

製造所等において危険物保安監督者に危険物の取扱作業に関して保安の監督をさせていないとき

屋外タンク貯蔵所において危険物保安監督者を定めていないとき

給油取扱所において所有者等に対して危険物保安監督者の市町村長等の解任命令に違反したとき

移送取扱所において危険物保安監督者が免状の返納命令を受けたとき

屋内貯蔵所において危険物の貯蔵、及び取扱いの技術上の基準に係わる市町村長等の遵守命令に違反したとき

**問 1 6 . 物質の状態変化と熱の出入りについて、次のうち正しいものはどれか**

- 液体が気体になることを昇華といい、熱を放出する
- 固体が液体になることを融解といい、熱を放出する
- 気体が液体になることを凝縮といい、熱を吸収する
- 液体が固体になることを融解といい、熱を放出する
- 状態が変化するとき、吸収又は放出される熱はその物質の温度変化となって現れない

**問 1 7 . 化合物と混合物について、次の記述のうち誤っているものはどれか**

- 水は酸素と水素の化合物である
- ガソリンは種々の炭化水素の混合物である
- 二酸化炭素は炭素と酸素の化合物である
- 空気は酸素や窒素などの化合物である
- 酸素とオゾンとは同素体である

**問 1 8 . 電気設備の火災に適応する消化剤の組合せとして次のうち正しいものはどれか**

- 二酸化炭素・消火粉末
- 化学泡　　・強化液
- 二酸化炭素・水溶性液体用泡
- 機械泡　　・水
- 化学泡　　・消火粉末

**問 1 9 . 消火について次のうち誤っているものはどれか**

- 燃焼の三要素のうち一つの要素を取り除けば消火できる
- 窒息効果による消火とは酸素濃度を低下させ消火することである
- 水は比熱が大きく気化熱も大きいため冷却効果が大きい
- セルロイドのように分子内に酸素を含有する物質は窒息効果による消火が有効である
- 二酸化炭素消化剤の主たる消火効果は窒息である

**問 2 0 . 次の文の( )内のA及びBの組合せで正しいのはどれか**

「可燃性蒸気は空気とある濃度範囲で混合している場合にのみ燃焼する。この濃度範囲を( )という。また、この( )の下限値の濃度の蒸気を発生しているときの液体の温度を( )といい、この温度になると炎、火花を近づけると燃焼する。」

- 燃焼範囲　発火点
- 燃焼範囲　引火点
- 爆発範囲　自然発火温度
- 爆発範囲　燃焼点
- 燃焼範囲　燃焼点

**問 2 1 . 静電気に関する記述のうち誤っているものはどれか**

静電気の蓄積防止対策の一つに物質を電氣的に絶縁する方法がある

静電気は人体にも帯電する

静電気による火災では燃焼物に適応した消火方法をとる

静電気は一般的に物体の摩擦などにより発生する

静電気は空気が乾燥しているときに蓄積しやすい

## 問 2 2 . 次の文のうち正しいのはどれか

エチルアルコールの比熱は水よりも大きい

鉄の熱伝導率は水よりも小さい

ニッケルの線膨張率は体膨張率よりも大きい

熱の対流は液体及び固体にだけ起きる現象である

外圧が高くなると沸点も高くなる

## 問 2 3 . 自然発火について ( ) に当てはまる語句の組合せで正しいのはどれか

「自然発火とは他から何ら火源を与えないで物質が空气中で常温において自然に ( ) し、その熱が長期に蓄積されて遂に ( ) に達し燃焼を起こす現象である。自然発火性を有する物質が自然発火を起こす原因としては ( ) ( ) 吸着熱、重合熱、発酵熱などが考えられる。( ) の中には不飽和性のため空気中の酸素と結合しやすく、放熱が不十分なとき温度が上がりついには発火するものがある。

発熱・引火点・分解熱・酸化熱・セルロイド

酸化・発火点・燃焼熱・生成熱・セルロイド

発熱・発火点・酸化熱・分解熱・動植物油

酸化・燃焼点・燃焼熱・生成熱・セルロイド

発熱・引火点・分解熱・酸化熱・動植物油

## 問 2 4 . 物理変化と化学変化について誤っているものはどれか

ドライアイスが二酸化炭素になるのは化学変化

氷が水になるのは物理変化

鉄が錆びるのは化学変化

ニクロム線に電気を通じると熱くなるのは物理変化

鉛を過熱すると解けるのは物理変化

## 問 2 5 . 次の記述のうち誤っているものはどれか

物質には気体、液体、固体の3つの状態がある

気体の溶解度は圧力が一定の場合、溶媒の温度が上昇すると大きくなる

一般に物質は圧力が一定の場合、温度が高くなると体積を増す

気体は温度が一定の場合、周囲の圧力が高くなるとその体積は小さくなる

物質は周囲の温度や圧力の変化によって状態が変わる

## 問 2 6 . 危険物の性状として誤っているものはどれか

単体、化合、混合の3種類がある

液体の危険物の比重は1より小さいが、固体の危険物の比重はすべて1より大きい  
水と接触して発火し若しくは可燃性ガスを発生するものがある  
同一物質であっても、形状および粒度等によって危険物にならないものがある  
不燃性の液体及び固体がある

**問27. アセトン及びエチルアルコール等の火災に水溶性液体用消化剤以外の一般的な消化剤を使用した場合はどうか  
きではない理由として正しいものはどれか**

泡が重いため沈む  
泡が燃える  
泡が乾いて飛ぶ  
泡が固まる  
泡が消える

**問28. 第4類の危険物の火災の一般的な消火効果で次のうち誤っているものはどれか**

粉末消化剤は効果的  
窒息消火は効果的  
泡消化剤は効果的  
強化液消化剤は効果的  
引火点が低いので注水による冷却消火が効果的

**問29. 次の文の( )内に当てはまる語句の組合せはどれか**

「動植物油のうち( )はヨウ素価が( )ので空気中の酸素と反応しやすく、この反応で発生した熱が蓄積すると( )  
を起こすことがある」

乾性油・低い・自然発火  
乾性油・高い・自然発火  
半乾性油・低い・自己燃焼  
半乾性油・高い・自己燃焼  
不乾性油・低い・爆発

**問30. 第4類の危険物の特性として正しいものはどれか**

火源がなければ発火しない  
常温以下では、可燃性蒸気を出すものはない  
一般に熱伝導が大きいので、蓄熱し、自然発火しやすい  
蒸気は一般的に空気より軽いので、拡散しやすい  
温度が高くなれば、発生する可燃性蒸気が増加する

**問31. ガソリンの性状に関する記述のうち誤っているものはどれか**

引火点は-40以下である  
流動により静電気が発生しやすい  
水より軽い

燃焼範囲はおおむね1.4～7.6 Vol%である  
灯油と間違わないように淡青色に着色されている

**問32. 灯油の性状に関する記述のうち誤っているものはどれか**

電気の導体である  
霧状にしても火がつきやすい  
水に溶けない  
引火点は40 である  
水より軽い

**問33. 引火点が低いものから高いものへの順番に並べられているものは次のうちどれか**

酢酸・ベンゼン・重油  
自動車用ガソリン・メチルアルコール・灯油  
灯油・ジエチルエーテル・アセトン  
二硫化炭素・ギヤー油・ベンゼン  
軽油・酢酸メチル・潤滑油

**問34. 下記の自己例を教訓とした今後の対策として誤っているものはどれか**

「給油取扱所の地下専用タンクに移動貯蔵タンクからガソリンを注入する場合、作業者が誤って他のタンクの注入口に給油ホースを結合したため、この地下専用タンクの計量口からガソリンが噴出した。」

注入開始前に移動貯蔵タンクと注入口に誤りがないことを確認する  
給油ホースを結合する注油口に誤りがないことを確認すること  
地下専用タンクの注入管に過剰注入防止装置を設置する  
地下専用タンクの計量口は注入中は必ず開放し、常にガソリンの注入を確認する  
注入作業は給油取扱所と移動タンク貯蔵所の両方の危険物取扱者が立会い、誤りがないことを確認する

**問35. 流動などによっても静電気がほとんど発生しないといわれている危険物は次のうちどれか**

灯油  
ベンゼン  
軽油  
ガソリン  
エチルアルコール

回答

問1：2、問2：3、問3：5、問4：3、問5：4、問6：3、問7：3、問8：2、問9：4、問10：4  
問11：3、問12：3、問13：3、問14：3、問15：4、問16：5、問17：4、問18：1、問19：4  
問20：2、問21：1、問22：5、問23：3、問24：1、問25：2、問26：2、問27：5、問28：5  
、問29：2、問30：5、問31：5、問32：1、問33：2、問34：4、問35：5